

鵠志会創設45周年記念総会・パーティーは大盛況



鵠志会会員の皆様いかがお過ごしでしょうか？

第9号鵠志メールを発行するに際し1年を振り返りながらご挨拶をしたいと思います。

特に、昨年は母校東京理科大の創立125周年の式典と祝賀会が6月14日

帝国ホテル孔雀の間で盛大に行われ、私も鵠志会を代表して出席してまいりました。

一口に125周年といいますが、先人の理学教育に対する思いから端を発し、今日迄多くの卒業生の活躍が125周年という重みになり、歴史と伝統を積み上げられて来たことを実感するとともに母校への誇りを感じざるを得ませんでした。

一方恒例の鵠志会の総会とパーティーは、設立45周年と名づけて母校とは反対にある飯田橋の「東京大神宮・マツヤサロン」で行いましたが、近年まれに見る盛大な会が行われました。

塚本理事長からも125周年への寄附協力で丁重な感謝のお言葉をいただきました。

又特にアサヒビールの取締役、執行役員を務められている本山和夫（47年理工IA卒）さんに「アサ

鈴木 幹久（S38年理・化学科卒）

ヒビールの現状 お客様のうまいの為に！」というテーマで講師をお願いし本山さんの活躍ぶりを垣間見ました。

学生も先輩たちの輪の中に入っているいろいろな談笑しており、久しぶりのOB会らしい会でした。

もう一つの学校の行事「ホームカミングディ」（10月8日）は、天気は暖かでしたが、風が強く特に野田キャンパスの素晴らしさは感じ入りましたが、兎に角速すぎました。

又、行事、出し物の企画がいま一つインパクトにかける様でした。

第1回目とは云え、大変な不評の様でした。

当会からも10～12名の先輩が参加していただきましたが、今回は残念な結果となりました。

今年も第2回を計画、企画中との事です。

最後に、昨年は、役員改選時でしたが、候補者不在の為に不肖鈴木がもう1期勤めさせていただきます。

宜しくご協力のほどお願い致します。

尚、副理事長の坂元充氏に代わって望月哲夫氏に新しく副理事長をお願いする事になりましたので、あわせてよろしくお願い致します。

総会に先立ち本山和夫さん（S47年理工・経営工学科卒）による特別講演

平成18年7月1日（土）東京大神宮「マツヤサロン」で鵠志会創設45周年記念総会とパーティーが東京理科大学の塚本理事長の御隣席のもと行われました。それに先立ちアサヒビール取締役の本山和夫さん（S47年 理工・経営工学科卒）による特別講演『アサヒビールの現状 お客様のうまいの為に！』が行われ「スーパードライ」の成長の軌跡など発売前後の社内の意識改革も含めて興味深いお話がありました。

パーティーでは羽山監督ら新指導者の紹介があり全日本理工科学生柔道優勝大会でベスト4になった現役選手の奮戦談話で盛り上がりました。ショータイムではキングレコードの「祥子」さんの歌声も聞

かれて大盛況のうちに閉幕しました。



平成18年度柔道部試合結果

東京学生柔道優勝大会（5月28日 日本武道館）

1回戦 シード

2回戦 東京理科大学0 - 7 早稲田大学

敗者復活一回戦 東京理科大学4 - 1 一橋大学

敗者復活二回戦 東京理科大学0 - 6 慶応義塾大学

〔結果〕二回戦敗退、敗者復活二回戦敗退

関東理工科四大学柔道対抗戦（6月4日 東洋大学柔道場）

団体戦

東京理科大学④ - 2 日本工業大学

〃 ④ - 3 東洋大学工学部

〃 ⑤ - 1 芝浦工業大学

〔結果〕優勝

個人戦（50周年記念大会）

三好 功展 三位

竹本 直矢 三位

全日本理工科学生柔道優勝大会（6月25日 講道館）

一回戦 東京理科大学② - 1 東京電機大学

二回戦 東京理科大学⑤ - 0 慶応義塾大学

三回戦 東京理科大学③ - 2 群馬大学工学部

準決勝 東京理科大学0 - ③日本大学生産工学部

三位決定戦 東京理科大学2 - ③日本大学工学部

〔結果〕ベスト4（三位決定戦敗退）

東京学生柔道体重別選手権大会（9月3日 日本武道館）

60kg級 木部 隆則 一回戦敗退

66kg級 西本 圭佑 二回戦敗退

73kg級 三竿 太志郎 二回戦敗退（一回戦シード）

81kg級 三好 功展 一回戦敗退

90kg級 竹本 直矢 二回戦敗退（一回戦シード）

〃 曾根 秀倫 二回戦敗退（一回戦シード）

〃 坂本 祐理 一回戦敗退

野田市民柔道大会（10月8日 野田市総合公園体育館内武道場）

竹本 直矢 準優勝

三好 功展 三位

東京理工科四大学柔道対抗戦（10月22日 法政大学第二高校柔道場）

東京理科大学⑤ - 2 法政大学工学部

〃 ③ - 2 東京電機大学

〃 ⑤ - 1 武蔵工業大学

〔結果〕優勝

東京学生柔道二部優勝大会（10月29日 日本武道館）

一回戦 東京理科大学⑥ - 1 芝浦工業大学

二回戦 〃 3 - ③立教大学

〔結果〕二回戦敗退

新宿区民大会（11月5日 新宿スポーツセンター）

左直 正浩（野田一年生） 無段の部 三位

花屋 賢悟（野田四年生） 初段重量級の部 三位

関東理工科四大学柔道対抗戦（12月16日 日本工業大学）

東京理科大学2 - ④芝浦工業大学

〃 3 - ③東洋大学工学部

〃 1 - ⑤日本工業大学

〔結果〕四位

鶴志会からの助成金の運用と現在の柔道部の財政状況について



昨年度も柔道部へ多大な財政的なご援助をしてくださって本当にありがとうございました。しかしながら、全日本理工科や二部リーグ（東京学生二部）においてOBの方々の期待を裏切る結果になってしまい大変申し訳ありませんでした。今年度はOBの方々の助成に見合うだけの結果を残せるよう部員一同、努力する所存です。

今現在、柔道部の収入源は各部員から徴収する部費、学校側からの助成金、そして柔道部OBの方々や鶴志会からの助成金の大きく分けて3つに分かれています。ただ、部費に関しましては一昨年、さらにその前年度においては特に鶴志会の助成金、

神楽坂地区部長 小林 宏伸

OBの方々の全日本理工科優勝におけるご祝儀に依存して徴収していなかったのですが師範、また、OBの方々のご指摘もあり一人あたり五千円を徴収しまして試合参加費などにあてました。そこで昨年度（平成18年度）の鶴志会からの助成金の運用の内訳を下に載せました。

鶴志会からの助成金の運用状況

東京学生柔道連盟登録費 100,000円

東京学生柔道連盟分担金 100,000円

計 200,000円

鶴志会から頂きました助成金の運用につきましては2項目のみの単純なものとなってしまいましたが以上です。東京学生柔道連盟登録費に関しまして実際は154,930円支出しております。残りの約50,000円につきましては大学からの連盟登録費援助金50,000

円でまかなくなりました。

東京学生柔道連盟登録費の内容といたしましては選手登録料、指導者登録料、東京学生柔道連盟理事評議員登録料となっております。また、東京学生柔道連盟分担金は東京学生柔道連盟に登録している大学は必ず支払わなければいけないものとなっております。それ以外の試合参加費は大学からの助成金、試合援助金、または部費によってまかなくなりました。しかしながら、試合援助金などは全ての試合においてではなく、それも全額支給されるわけではないので諸雑費（在学証明書などの試合における必要書類発行代、テーピング代、試合参加費の書留代など）においては各部員の個人負担になっているものも多数あります。この場で明確に収支報告ができないのもそのような部員の個人支出まで把握できていないためです。今年度におきましては明確に収支報告ができるように会計業務を行うような体制にしていきたいと思っております。今年度もOBの諸先生方の現役部員への変わらぬお力添えをよろしくお願いいたします。

一年間の部長の任期を終えて

去年の一月上旬の鏡開きにおいて現四年生の先輩と幹部交代をしてから早一年と少しが過ぎようとしています。部長になった当初はとにかく最初は手探り状態で先輩に言われたとおりの事を行うだけで、やっと最近になって自分で考え、回りと相談して物事を進められるようになりました。これも師範、監督、OBの方々、先輩、後輩、また学科の友達の援助があったからこそ自分自身、ここまで成長できたと思っています。

そこで、自分自身の三年間の柔道部におけるエピソードをこの場をお借りして語らせて頂きたいと思っております。

まず、自分は大学に入ってから柔道を始めたので入部した当初は柔道のいろはも分からない人間だったのですが、先生、先輩の懇切丁寧な指導のおかげで2年の後半になる頃は大外刈、払い腰が少しずつできるようになってきて柔道の面白さが分かるようになってきました。しかし、柔道に対しては自分の引込み思案で何事にも本気にならない性格が災いして、常に受身の姿勢で自分から学ぼうとはあまりせず、乱取などにおいても自分から元立ちに立とうとせず、また、柔道の試合を観戦やテレビを見ようとは思いませんでした。

しかし、部長になってからはこれではいけない、後輩たちを引っ張っていくには自分自身、柔道の知識を持っていないと部員のみんなと話もできないと思って、4月の全日本選手権や6月の全日本学生柔道優勝大会など自分から武道館に観戦に行ったりして選手や技について詳しくなると柔道もどんどん好きになってきました。また、テレビの柔道の放送があれば必ず見るようになり、ビデオを取って繰り返し見るなどして技の研究もするようになりました。それを機に実際の柔道においてもアグレッシブになり、負けず嫌いになり、技を考え、工夫をするようになりました。元立ちも進んで立つようになり、講道館にも練習に行くようになりました。試合においては5月の東京学生柔道優勝大会を筆頭に計14試合出場しましたが、結果として6勝8敗の負け越しに終わってしまいました。来期は必ず勝ち越せるようにしたいです。

今年は柔道部員としても自分自身の人生においても大きな転機だったと思っております。他大学との交渉や東京学生柔道連盟の申し込み、また鶴志会の方々との会合などにおいてこれだけたくさんの人と関わることはこれまで生きてきた中であまりありませんでした。引込み思案な自分にとってはただただ驚く毎日、電話なども最初は恥ずかしくて中々、掛けられませんでした。ちなみに今もそうです。

しかし、自分一人ではここまで成長することは決してできませんでした。一年の頃から道場で指導してくださった金子師範、羽山監督、柳川先生、涌井先生、藤巻先生、大塚先生、野中先生また、ここには書ききれない先輩の方々、また、鶴志会などの機会に自分に激励の言葉をくださった鈴木理事長以下OBの方々、顧問として陰で支えてくださった金元先生、森地先生、普段、練習の場で共に汗を流した神楽、野田のみんな、そしてこの場で書ききれなくて申し訳ないのですが様々なところで御指導頂いた方々、本当にありがとうございます。皆様のおかげでこの一年間、無事に部長として東京理科大学一部体育局柔道部を引っ張っていけました。ご不満なところや至らないところはたくさんあったと思いますが、そこはこれからの柔道部以外のフィールドで改善していきたいと思っております。今まで本当にありがとうございました。また、これからもよろしく申し上げます。

伊豆観音温泉での夏合宿

昨年、9月7日～11日まで久々に遠征して合宿が行われました。場所は伊豆の観音温泉、温泉が出たのをきっかけに武道振興のためにまず合宿道場を建

てたという「ホテル観音温泉」での5日間は現役学生にとって得るものは多かったようです。



一年 神楽坂 石田 弘輔



大学から柔道を始めた私にとって、夏合宿は大勢のOBの方々や先輩方に指導してもらえる貴重な日々でした。普段の練習以上に朝も昼も練習づくしで、苦しく思うこともたくさんあったし、筋肉痛も痛かったけど、合宿を乗り切った達成感はいつも以上でした。

その中で、“目標を持つように”とアドバイスをいただいて、私が立てた目標は、“背負いが強くなること”“寝技を覚えること”でした。しかし、その中で一度の合宿では達成できなかったほど、自分の技の課題が見えてきました。今まで気づかなかったこと、いつの間にかついでしまったクセ、教えてもらえばもらうほど、足りないことや、気をつけることが増えていきました。しかし、それがまた日々の練習の指針となったと思います。

合宿で一番思い出に残っていることは、朝のマラソンです。朝の走りこみが、その日はマラソン大会のように、みんなで競い合い頑張って走って、2位になれたことです。山の中の登り道を頑張って走って、前にいる人に必死でついていきました。1位にはなれなかったけれど、上位の先輩や一年生とともに走りきった気持ちよさを感じることができました。

もうひとつ合宿で、得たものはあきらめずに技が決まるまで攻めつづける気持ちです。OBの方々や先輩方が相手に、技がかかるまでどん欲に攻める気持ちがないと、私が技を決めることはできません。これが私に一番足りなかったものだったと思います。

今回の夏合宿で、OBの方々や先輩方に教わったことを日々の練習の中でさらに磨いていきたいと思っています。お忙しい中合宿に参加していただいたOBの方々や先輩方ありがとうございました。



一年 野田 佐直 正浩



夏合宿では、先生やOBの方々に動きを見せていただいて稽古をする事がどれ程重要であるかを、より一層思い知りました。

これからはその一つ一つにしっかりと向き合っていきたいと思っています。

そして、今回の夏合宿で学び気づかされた幾つもの改善点を自分なりに日々の稽古で意識し、高めていけたらと思います。

大学で稽古をする機会は、週3日と少なくとも貴重なので、夏合宿以降、以前よりも稽古で何かひとつ得ようと思う気持ちが強くなりました。

合宿所の感想といたしましては、合宿所は自然に囲まれた高台にあり、空気もおいしく、稽古をするには最高の環境でした。

また、温泉旅館でもあったので露天風呂は最高であり、練習の疲れも癒されました。温泉水もおいしかったです。

また、柔道だけでなく、早朝の走りこみもいい練習となりました。雨に降られてのランニングでしたが、最後まで走りきりました。

練習後の食事は旅館の人の配慮もあったせいか、とても米の量が多く、部員全員でかかっても食べきれないほどありました。

練習に、交流に、どんちゃん騒ぎに、そしてある時はシリアスに人生論をぶつけ合った、そんな場所であったとおもいます。

来年の夏合宿も同じ場所でやることができたらいいなとおもいました。

二年 野田地区新部長 三好 功展



僕にとって二回目の夏合宿だった去年の合宿はとても充実したものになりました。過去しばらく理科大で行なわれていたのに対し去年は静岡県の下田で行なわれ、期待と不安を胸に合

宿を迎えました。

実際にいってみて静岡ならではの澄んだ空気と広大な自然により、つらい朝練や厳しい稽古でつかれた体を癒してくれました。さらに観音温泉ホテルならではの温泉やとてもおいしい食事により、その効果はさらに向上しました。

しかし、たとえどんなに体を癒してくれる要素がたくさんあろうと合宿はつらく、厳しいものです。初日をすぎ、二日目からは体中が筋肉痛でどこが痛いのかもわからない状態で稽古に励みました。そんな中精神的な支えになっていただいたのが師範や監督やコーチやOBの方々、先輩や同輩や後輩のチームメイト達でした。

それにより自分を限界まで稽古に打ち込むことができ、稽古がおわればじっくり体を癒してくれるという僕にとってとても充実した合宿でした。



二年 野田地区新主将 坂井 優



今回の夏合宿で自分は初めて学校以外のところでの合宿に参加しました。他校などに行き合宿を行うなどは何度か経験してきました。なので、今回の合宿はより新鮮なものに感じました。また、ただ合宿をするためだけでなく普段生活しているところから放れ半分旅行気分になれたことで自分としては部員とのつながりも強くなり、練習するにしてもまた違った気持ちで練習に臨むことができたのではないかと思います。今回の合宿ではただ柔道が強くなるためだけでなく部活の結束力を高めるものとして良い効果をもたらしたのではないかと

と自分は思います。ただ、今回は交通の便が悪く行くのに苦労したというのが今回の合宿の反省すべき点ではないかと思われます。なので、また今回のように校外にて合宿を行うようなことがあればそのようなことを考慮し、場所を考えて行く必要があると思いました。

三年 野田地区部長 石橋 努



『一度野田じゃない場所で合宿してみたい』

もちろん野田での合宿はとても有意義なものでした。最後の練習後の疲れきった体の状態で飲むお酒の美味しさや達成感など学ぶことはたくさんありました。ただ柔道部に在籍して3年目、おそらく現役としては最後の夏合宿。自分も部長になり、いつものやりなれた環境ではなく遠くに行ってみようという自分勝手な気持ちが沸いてしまいました。

実際に計画を立ててみると、「予算」、「日程があわない」、「そもそも道場がある場所が少ない」などの困難が…。合宿中にも数々の想定外なことが起こりましたが師範、監督、OBの方々や部員のみんなのおかげで乗り切ることができました。自分の準備不足、認識不足を痛感し、1年、2年目の時はわからなかったのですが、見えないところで自分がどれだけ助けられていたかを知ることができました。

観音温泉では、『マラソン大会が始まると雨が降り出し終わると雨がやむ』『僕が話をし始めたら月が出た(?)などの神秘的な出来事もあり(詳細は柳川さんが教えてくれます)、野田合宿ではできない経験をしました。最後の打ち上げの時に師範、柳川さんや部員に『来て良かった』と言ってもらった時は、本当にうれしかったです。

今回の合宿は「やってよかった」と思うと同時に「ああすればよかった」と反省することもたくさんありました。プラスの面でもマイナスの面でも本当に学んだことがたくさんありました。次期幹部の方々はこの合宿を踏まえて次の夏合宿をより充実したものになるよう努力してください。必ず人生の糧になると思います。

奨励賞授与

今年度、一部体育局柔道部は昨年度の全日本理工科学生柔道優勝大会ベスト4、関東理工科四大学柔道対抗戦優勝、東京理工科四大学柔道対抗戦優勝という結果を認められ、学校から奨励賞という賞を頂

現役一同

くことができました。

平成13年度に全日本理工科優勝の結果が認められ、団体で頂いた学長賞、平成16年度に現在、理工科の大学院に進まれている大島さんが数々の試合の

功績から頂いた学生部長賞にはおおよばずとも奨励賞はこれからの柔道部のさらなる発展を願う意味で今の私たちにぴったりだと思いました。

当日の3月9日は午後2時から賞の授与のリハーサルが行われ、そこで表彰状の頂き方、立ち居振る



左側で立っているのが柔道部です。

舞いの練習を行い、そして午後4時から学長賞、学生部長賞、功労賞、特別功労賞、奨励賞という順で学長、学生部長によ



つて学生への表彰状の授与が行われました。表彰式が終わった後、午後5時から学長、理事長などの先生方、学生課の方々、表彰された団体の学生とで盛大なパーティが催されました。来年はよりよい表彰状を頂くために柔道部みんなで理工科優勝目指して頑張ります。

忘年会は「アキバ」で

平成18年の鶴志会忘年会は東海林徹（S37年理・応用化学科卒）さんのご尽力で処を変えて最近話題の秋葉原で行われました。「おたく」やつくばエクスプレスで盛り上がるアキバでの忘年会は又、違った趣で30年代卒業の諸先輩から現役諸君まで楽しい一時を過ごしました。



追いコンで追い出され鶴志会員に

平成19年3月6日（火）神楽坂の「天狗」で追い出しコンパが行われました。最年長の村山君以下それぞれが4年間？の柔道部生活に終止符を打ちましたが大学院生が多い事もあり現役生活は続行です。全日本理工科学生柔道優勝大会には出場権があるだけに今後が楽しみです。柔道部を追い出されると鶴志会員になる事もお忘れなく！！



村山暁洋がアームロックで秒殺

プロ修斗の世界ランキング9位に

この大会はトップグループを目指すルーキーたちの大会で、この日は全8試合が行われた。メインイベントではライトヘビー級クラスBの村山暁洋が同級クラスBの古川“ジュウザ”誠史と対戦した。村山は開始早々、古川のパンチを受けるも、引かずに積極的に前に出て低い姿勢から古川と組むと、豪快な腰投げでテイクダウン。「倒したときに手が見えたので取りにいった」という村山は、すかさず古川の右腕をつかみ、がっちりアームロックを極め

る。「絶対に勝たなかったのでボキンという音がしても離さなかった」というほど強烈な極めに古川はたまらずタップ。村山



が電光石火の39秒で一本勝ちを収め、クラスA昇格を決定付けた。試合後、村山は勝因について「相手はタックルがうまいので自分からいって組めたのが良かったです」と振り返った。くしくもこの日は村山が師匠と慕う元修斗ライト級チャンピオンの坂本一弘修斗プロデューサーの誕生日だった。リングサイドで見守る坂本氏の前で村山は勝ち星をプレゼントし、「おめでとうございます」と祝福の言葉を伝えた。そしてリング上から「自分はまだ後楽園で試合をしたことがないので使ってください」と、しっかりアピールすることも忘れていなかった。気持ちはすでにクラスAに向いている。

「ライトヘビー級の上位ランカーはチャンピオンの山下志功さんを除くと外国人選手ばかりなので、自分も外国人に負けないように体を大きくしてかき回してやりたい」

村山がうれしそうに今後の抱負を語った。

（情報紙スポーツナビより）

鵜志会ゴルフ第12回コンペ報告

鵜志会ゴルフ同好会事務局 S46年 理・物理学科卒 望月 哲夫

恒例のコンペは、4月23日(日)、彩の森カントリークラブで開催。

会場は、東京都西部、多摩川西岸の豊かな自然の多摩丘陵に昭和36年設立され、自然のままの姿を生かしたスケールの大きなつくりで、フェアウェイはアンジュレーションに富み、飛距離も正確なコントロールを要求される本格的なゴルフコース。

参加は、石井邁先輩(37B)、鈴木幹久理事長(38K)、坂元充先輩(44E)、同期の根岸報告である望月哲夫(46B)の6名。2組に分かれ、第一組は、佐藤先輩、鈴木理事長、坂元先輩、第2組は、石井先輩、秦先輩、望月。

スタート直前、大粒の雨が降り出し、Inコーススタートホールに集合の参加者は、各々レインウェアに身を固め、スタンバイ。

そして、9時45分、第一組スタート。雨は、その後、小降りとなり、午後には、薄日が射すまでに天候回復。しかも、桜を散らす程の風は無く、各自、それぞれの運と実力を発揮。

コンペパーティーでの表彰発表、優勝は、佐藤先輩、2位は、石井先輩、3位は、秦先輩。参加の皆さん和気藹々のゴルフで一日楽しまれた。

尚、平日開催の為、常連の会社現役メンバーの参加が少なかったのは残念であった。

鵜志会ゴルフ同好会発足および秋季小コンペ報告

鵜志会ゴルフ同好会は、平成18年度総会に先立ち、参加呼びかけをし、賛同メンバーの熱い志で発足しました。会の意図は、従前の年一回開催のコンペは、ご都合のつかない方にとって、当年度、皆さんとご一緒する機会がないとの反省を踏まえ、ゴルフ好きの会員の皆さんが年一度は、参加できる機会を持ち、更に、少しでも多く同好の志と集い、切磋琢磨しつ

つ、仲間の和(輪)を広げようとするところにあります。本同好会は、19年度より年2回以上4回前後の開催で本格活動を開始します。

ゴルフに興味あるメンバーは、経験の有無にかかわらず、楽しみ研鑽できる企画としたいと考えています。未登録の方は、まずは、事務局へ参加表明してください。

次に、本格活動を待ちきれずに行った10月の小コンペの報告をします。総会後に初めて開催の10月の理事会の席で、急遽小コンペ開催を決定。スポーツの秋は、ゴルフコンペも最盛期で、会場手配も困難。幸い、山田茂先輩(44B)のご尽力で東京近郊の名門コース、立川国際ゴルフクラブで10月29日に2組確保でき、実行可となりました。

急な開催、確保した2組8名枠のために、理事会で参加を決めたのは、鈴木理事長、坂本先輩、山田先輩、報告者(望月)の4名。そして、残枠は、最近出席実績のある方にご連絡し、佐藤滋先輩、石井邁先輩、野崎保先輩の参加となった。会場の立川国際奥多摩コースは、多摩丘陵の自然地形をそのまま生かし、変化に富んだ戦略性の高いチャンピオンコースで、東京都アマチュア選手権決勝の開催コースでもあるとか。

当日は、秋晴れ、10時過ぎのスタート時には汗ばむほどの日差し。第一組、佐藤先輩、石井先輩、野崎先輩、鈴木理事長、第二組、山田先輩、坂元先輩、望月の組み合わせで、紅葉に色づいたコースへ打って出、秋の一日をゴルフと、会話に楽しみました。なお、山田先輩が、腰痛再発で、途中リタイアされたのは残念であった。コンペ終了後のパーティーは、コース最寄り駅前の居酒屋。参加各位のHDに基づくネットスコア発表での順位は、1位野崎先輩、2位佐藤先輩、3位石井先輩、ベストスコア佐藤先輩の結果でした。

訃報

平成18年2月18日に近藤信一さん(49年理学部数学科卒)が大腸癌で亡くなったという連絡が同期の豊下さんより入りました。昨年の名簿作成の際、古館さんから様子は聞いていたのですが50代半ばでの早すぎる旅立ちです。謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

足払いが得意技でその実直な性格から恩田東周先生からも良く褒められていた事が思い出されます。同期の皆さんから追悼の言葉が届いていますので紹介させていただきます。

S49年理・応用化学科卒 豊下 二郎

柳川さん 早速訃報の件取り上げていただきありがとうございます。2月4日に古館、斉藤孝、渡辺そして私の四人で線香をあげに行ってきました。家族と昔話に花が咲き喜んでもらいました。近藤に關しての思い出はたくさんありますが一番の思い出は何と言っても彼はま



2列目左から2人目 黒のタートルネックが近藤さんです。

じめで稽古も一番熱心だったということです。私と同じ白帯から始めたのですが神楽坂の中では一番延びて強くなった男でした。平成17年夏に入院中の病院に見舞いに行ったのが最後となりました。心を語り合える友を失って残念です。御冥福を祈ります。

S49年工・経営工学科卒 小川 雄三

近藤さんとは、年賀状のやりとりが続いていて、今年、こなかったなあと思っていたら、近藤さんの父上からの寒中見舞いで訃報をしりました。

すごいショックを感じています。

大学を卒業して、30数年、ずっと関西におり、東京に住んでいた両親もなくなり、東京がすごく遠い地になっています。

本当に、ご無沙汰して、申し訳ありません。

S49年理・物理科卒 渡辺 岳

近藤君が亡くなってもう一年が経ちました。

実は一昨年の暮れに豊下から連絡をもらって体調を崩している事を知ってはいましたが、その年が明けてすぐに亡くなっていたと聞いて驚いています。

先日、同期の4人で近藤家を弔問してきましたが、お父さんとお母さんは未だに息子の死を受容しきれない様子が言葉の端々から窺えました。

「毎日遅くまで仕事をして、真面目にやってきた」「仕事の後の酒の付き合いも几帳面に真面目に果たして身体をこわした」

もう少し手を抜いていれば、という思いが伝わってきましたが、それが出来ないところが近藤君らしい処だった訳です。決して弱音を吐かず、グチもこぼさず、何事にも一生懸命で真面目に努力してきた彼の姿が思い起こされます。合掌

『心の柔道』 VOL-2 なぜ起きる？合宿の不思議現象！！



昨年は久々に外での夏合宿となりましたが当時は外でやる事が当たり前のように信州等の各地を訪れましたがそこで不思議な現象は枚挙に暇がありません。恩田東周先生を訪れると起きる事から先生の神通力かとも思ったものでした。

今回は当初、神楽坂部長の小林君がインターネットで河口湖の合宿所をさがし内定していましたが先方の都合でキャンセルとなりました。大詰めでのキャンセルで難航しましたが野田部長の石橋君が伊豆の観音温泉を探し急遽決定しました。私は後半に行きましたが到着と同時に藤巻コーチより観音温泉のルーツを聞いて不思議現象の予感を感じました。それは柔道家であり実業家でもあったホテルオーナーの夢枕に観音様が立ち今回買入したこの山を掘れば温泉が出るのお告げを受けて掘ったところ、小さな観音像が出て意を強くして掘ると温泉が出たという話でした。以下がその後、私達に起きた不思議話??です。

その1 最終日のマラソン大会でのこと。前日のミーティングで金子師範から学生当時の厳しい合宿で朝、寝床で雨の音が聞こえると朝練が休めるので内心ホッとしたとの話がありました。当日の朝練の集合時は今にも雨が降りそうで全員昨日の話が脳裏をよぎりました。しかしながら準備体操でも降りそうで降りません。無常にも？マラソンはスタート、

山道の往復です。ところがその30秒後、雨が降り始め、下りから上りに変わる折り返し点には最も激しく降りました。その後ゴールの頃には不思議に雨も上がりましたが、降り始めが1分早ければマラソン大会は中止となっていたでしょう。観音様の洗礼かのような雨は久々に復活したマラソン大会を祝うように1、2、3位を独占した白帯1年生達や最下位ながら完走した久喜の高野主将達に降り注ぎました。

その2 最後の稽古での事。いよいよ稽古も終わり合宿の最後の黙想の後、師範の言葉を待つ瞬間でした。下座から上座に向かって大きなアブが相当な勢いで飛んできました。練習中にも飛んではいましたがその時のタイミングと角度は異様な物を感じました。そしてそのアブは今回、この合宿の準備に苦勞した石橋君（野田部長）のところに向かいました。「叩き落とせ！！」という全員の声もむなしく、やさしい？彼は「ヒュー」とのけぞってしまい叩くタイミングを逃してしまいました。アブは次に金子師範の所に向かいました。さすが師範、宮本武蔵の様に見事にアブを叩き落としました。その横にいた私が「見事なタイミングですね」と思わず言ってしまうましたが師範が「そうだ、これが柔道の極意だ」と言って全員がドッと沸いた所で合宿も終了となりました。先に帰った、羽山監督がそれを聞いてそのアブは命がけで石橋君にそのタイミングを教えにきたのではないかといっていました。そうかもしれませんが。

その3 恩田東周先生は合宿の前後に必ず土地の氏神様に参加者全員でお参りしこの土地で合宿する事の最初の挨拶と最後のお礼が大切と教えて下さいました。その事を実行すべく現役に指導しました後、

学生より一足早く金子師範と帰りがけに氏神様への最後のお礼にお参りをしました。私達は社の外からでは物足りず格子状になっている木戸を開けて中に入りました。すると突然、「バタバタ」という羽音がして驚きましたがどうも野鳥が格子から中に入り込んで出られなくなっている様でした。師範と二人でなんとか野鳥を外に出しましてお参りをすませました。格子戸を開ける人はそういない様な氏神様ですからあのままですと野鳥は餌も取れずおそらく死んでいたと思います。いよいよ帰途に着こうとふもとの車に戻りましたら先程の野鳥がお礼を言うか

の様に車の周辺を旋回してどこかに飛んで行きました。この事もその後、羽山監督に話しましたところその野鳥は恩田東周先生の化身ではないか、久々の外での合宿の成功に喜んで出てこられたのではないかという事になりました。さすが、恩田東周先生存命の折、多いにその薫陶を受けた羽山監督の談だと思えます。

俗世から離れて柔道漬けとなる外での合宿、その没頭する『純粹な心』に呼応してサイエンスだけでは割り切れない不思議な現象が起きるのでしょうか？

(文責 柳川 昌徳)

理科大学創立 125 周年記念寄付にご協力下さり有難うございました。

平成19年3月10日現在までにご寄付頂いた方のお名前(卒年順)をご紹介します。

ひき続き受付中との事ですので宜しくお願い致します。柔道部OB会「鶴志会」として百万円を寄付致しました。

齊藤 宏	狩野 雅一	山口 晃	岩本 和也	古川喜代志	吉野 優
白銀 恒夫	木下 三郎	熊木 重次	徳丸 博庶	杉原 敬治	岡崎 博明
内倉 千秋	鈴木 隆雄	佐藤 滋	石井 邁	秦 才賢	鈴木 幹久
浅部 喜博	万波 弘育	松元 功	川口 勲	佐久間勝弘	仲川 秀雄
津島 利亘	五十嵐幹治	柴崎 尚平	中田 芳文	高宮 宏	森 俊幸
坂元 充	山田 茂	三浦 拓夫	荒川 信二	望月 哲夫	上田 克己
皆川 滋	福原 清二	望月 治郎	山田 忠之	阿部 正敏	山内 鋭治
村田 隆信	倉金 清	古館 猛	柳川 昌徳	入澤 利明	涌井 俊秋
浜下直太郎	柴田 昇	山下 義昭	渋谷 明彦	平井 優	三浦 正雄
瀧川 明彦	伊藤 雅章	小山田秀和	伊藤 明芳	宮本 建司	大竹 秀幸
元田 和文	鈴木 靖庸	小玉 修			

編集後記

今回は久々に外での夏合宿という事から合宿の特集という形となりました。

当時の懐かしい思い出が甦った方もおられると思います。

今後の皆様への原稿依頼に付きまして『ペンリレー』という方式をとらせて頂いて原稿をリレー形式(最初に依頼した方から次の方に確実にバトンタッチして頂く)で出して頂く事となりました。トップバッターは、元理事長の熊木重次さん(S35年理・化学科卒)にお願いしましたところ快諾して頂きました。状況を見て若年層とのブロック分けも検討しておりますので、ご協力宜しくお願い致します。

これからも皆様の情報交換の媒体としてご意見やご指導を頂きより良い会報となる様努力して参りたいと思います。皆様の近況や原稿を下記までお送り下さいます様お願い致します。又、掲載広告に多数応募頂きまして誠に有難うございました。

2008年度版鶴志メールに掲載する広告を募集中です。ご協力お願い申し上げます。 1口3千円

※今回、近藤信一さんの訃報が入りまして掲載させて頂きましたが今後も慶弔などの情報が有りましたらご連絡下さい。

鶴志会ホームページにアクセスしよう！！

URL <http://3net.jp/kokushikai/>

ホームページをお持ちの方はリンクできます。

ちなみに「祥子」さんのホームページは

URL <http://3net.jp/shoko/index.html>

鶴志メール編集委員会 柳川 昌徳

(S49年理工・建築学科卒)

TEL. 04-7134-0486

FAX. 04-7134-0487

E-mail mail@sho2000.net

古典、伝統文化が面白いですよ

都山流尺八大師範

S34年理・化学科卒 古川 韶山 (喜代志)
野田市みずき2-17-4 電話04-7124-5910

山田 茂 (S44年理・物理学科卒)

鶴志会元理事長

熊木 重次 (S35年理・化学科卒)

望月 哲夫 (S46年理・物理学科卒)

『日々此れ感謝』

杉原 敬治 (S35年理・物理学科卒)

小川 雅章 (S50年理工・経営工学科)

〒250-0013 小田原市南町3-2-35

TEL. 0465-22-4613

E-mail: info@3net.jp URL: http://3net.jp/

株式会社 鈴木法科学鑑定研究所

鈴木 隆雄 (S36年理・物理学科卒)

TEL: 045-361-4311

URL: http://houkagaku.co.jp



柴田建材株式会社

MATERIALS FOR THE FUTURE

柴田 昇 (S51年理工・経営工学科)

〒424 清水市万世町1-3-10

TEL0543-53-0151, FAX0543-52-9026

Raymax

CCTV レンズの開発・製造・販売
既存の概念にとらわれない製品開発をもっとに！
より安全に、良い環境づくりに、貢献しています



型式 RHM50Z1040MP
50×ズームレンズ
焦点距離 10-500mm
絞り範囲 F 4-360
重量 約 3.1kg

レンズの設計・製造等の開発及び特注品等も承ります。

レイマックス株式会社

代表取締役社長 川口 勲 (39年理・物理学科卒)

〒229-0034 神奈川県相模原市共和4-13-1 フェスト淵野辺2F

TEL: 042-754-4671 FAX: 042-754-4673

http://www.raymax.co.jp



Since 1960

日本油化工業株式会社



Since 1972

日本醗酵飼料株式会社

代表取締役 鈴木 幹久 (S38年理・化学科卒・暁星高校卒)

鶴志会 理事長

理窓会 幹事

理窓会 神奈川支部 副支部長

〒210-0022 川崎市川崎区池田1-5-4

TEL. 044-244-4334 Fax 044-245-1944

E-mail: Suzuki@n-hakko.com

http://www.n-hakko.com

MOM 建築設計・監理 宅地開発事業

有限会社 門松廣司建築研究所

TEL 0465-36-5388

門松 廣司 (S51年理工・建築学科卒)

E-mail: info@kadomatu.co.jp URL: http://kadomatu.co.jp/

相模湾、箱根山を一望



物件概要

■所在地 / 小田原市板橋字香林寺山871-14

■交通 / 箱根登山線箱根板橋駅徒歩10分

■用途地域 / 第一種低層住居専用地域

■その他 / 宅地造成工事規制区域

■地目 / 宅地

■建ぺい率 / 60%

■容積率 / 150%

■取引態様 / 販売代理

■建築条件付

■設備 / 水道 (市水)、公共下水、LPG

土地 488.86㎡
(147.88坪)

価格: 4,600万円

『住まい』に関するお悩みを解決します。

住宅の新築からマンションの耐震診断、
修繕工事まで建物のことなら何でもご相談下さい。



小岩Pマンション



白井M氏邸シアタールーム

一級建築士事務所 **しょう 設計**

建物の設計監理

所長 柳川 昌徳

(49年理工・建築学科卒)

(徳島県立城南高等学校卒)

〒277-0835 千葉県柏市松ヶ崎111-7

TEL 04-7134-0486 FAX 04-7134-0487

E-Mail mail@sho2000.net

URL http://sho2000.net